字のない葉書 (2)

向田 邦子

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

前半（筆者が親元を離れていたとき）	後半（終戦の年）
父からの手紙（筆者が女学校一年、十三歳のとき） 死んだ父は筆まめな人であった。親元を離れたときに届いた父からの手紙の「向田邦子殿」という表書きを見て、筆者はひどく驚いた。 ・日頃の父 罵声やげんこつは日常のこと。ふんどし一つで家中を歩き回り、大酒を飲み、かんしゃくを起こして家族に手を上げる。 ・手紙の中の父 折り目正しい時候の挨拶。「私」を貴女とよび、訓戒も添えられていた。 （＝威厳と愛情にあふれた非の打ちどころのない父親） 父は暴君だが反面照れ性でもあったので、他人行儀という形でしか娘に手紙が書けなかったのだろう。	**字のない葉書** ・末の妹の学童疎開 まだ字が書けなかった妹に、父はおびただしい葉書に自分宛ての宛名を書いて持たせた。 ・妹からの葉書 初めての葉書は威勢のいい赤鉛筆の大マル。次の日からマルは急激に小さくなっていき、情けない黒鉛筆の小マルはついにバツに変わった。まもなくバツの葉書も来なくなった。 ・妹が帰ってくる日 「私」と弟がかぼちゃを全部収穫しても父は何も言わなかった。妹が帰ってくると、父ははだしで表へ飛び出し、痩せた妹の肩を抱き、声を上げて泣いた。 **（あれから三十一年）** あの字のない葉書を、その後私は一度も見ていない。

表現の違い

本文の前半と後半では、人柄や心情の表現のしかたが異なる。

・前半…人柄や心情は、直接的に描かれている。

・後半…人柄や心情は、人物の行動などを通して描かれている。

確認テスト 教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

(1)「筆まめ」の意味を選びなさい。

ア 手紙や文章の文字がきちょうめんであること。
イ 手紙や文章の文字がいい加減であること。
ウ 面倒(めんどう)がらずに手紙や文章をよく書くこと。
エ 面倒がって手紙や文章をあまり書かないこと。

［　　］

(2) 本文の前半の内容に合うものを選びなさい。

ア 筆者の父はそれまで手紙を書くことがなかったので、筆者は父から手紙が届いたことにひどく驚いた。
イ 筆者の父は日頃から筆者のことを「貴女」とよぶなど、他人行儀だが威厳と愛情にあふれる人柄だった。
ウ 筆者の父の手紙は、時候の挨拶から始まり訓戒が添えられているなど、普段(ふだん)の父の姿とは異なるものだった。
エ 筆者の父の手紙は、暴君だが反面照れ性でもあった父らしく、用件だけ書かれたそっけないものだった。

［　　］

(3) 本文の後半の内容に合うものを選びなさい。

ア 疎開をすることになった末の妹は、自分宛ての宛名を書いた葉書をたくさん準備した。
イ 疎開をした妹から初めて届いた葉書には、情けない黒鉛筆の小マルが記されていた。
ウ 妹が帰ってくる日、小さいかぼちゃまで全部収穫してしまった筆者と弟を父は叱(しか)った。
エ 妹が帰ってくると、父ははだしで表に飛び出し、妹の肩を抱いて声を上げて泣いた。

［　　］

(4) 本文中の表現の説明として適当なものを選びなさい。

ア 筆者が親元を離れていたときを描いた前半の箇所(かしょ)では、愛情にあふれる父の人柄が、日頃の父の姿を通して描かれている。
イ 終戦の年を描いた後半の箇所では、父の心情や家族への思いが、父の行動を通して描かれている。
ウ 本文全体を通して、父の人柄や心情は、行動を通してではなく直接表現されている。

［　　］